

卓球クリニックFINAL in 淡路

～目指せ！TOKYO●2020～

- 趣 旨：卓球を通じて、子ども達の心身の健康増進を図る。
また、団体間の交流を深める。
- 日 時：令和2年1月3日（金）10：00～17：00
- 場 所：南あわじ市文化体育館
(兵庫県南あわじ市北阿万筒井1509-1)
- 対 象：選手（小学生、中学生、高校生）及び指導者
- 申込者：212名
- 参加者：189名（選手143名、指導者46名）
- 講 師：川畑 圭輔氏（フェニックス卓球クラブマネージャー）
：丸川 真一氏（TCマルカワ 専属コーチ）
：寺田 憲治氏（T's ZERO+ 代表）



8 プログラムの内容

1月3日午前 クリニックI

クリニックIでは、丸川講師の指導のもと、ラリーやフットワークの練習に励んだ。普段何気なく練習している基礎基本を見直す内容だったものの、意識してみるときちんと習得できていない動きも多く、多くの参加者が自分自身の課題を見つけたようであった。

丸川講師の話の中で、「失敗のイメージを残さず、良い（相手コートに入る）イメージを持ちながら、次に取り組むことが大切」という言葉が、印象に残った。



1月3日午後 クリニックⅡ

日本卓球協会のホープスナショナルチーム強化スタッフとして活躍する川畑講師による指導は、科学的な根拠に基づいており、実践を意識した内容であった。トップレベルの技術を動画を通して解説し、腕の振り切り方や、ラケットの接地面の使い方ドライブの回転や角度が変化することを、子供達に分かりやすく説明いただいた。参加者は個別に講師へ尋ねに行く姿や、選手だけでなく指導者の方も指導上のポイントについて詳しく質問をする姿があった。



9 参加者の声

- ・わかりやすく、レベルが高い内容で、とても勉強になりました。
- ・一日ですが、5時間という時間はとても充実していました。
- ・とても良い経験になりました。今後の練習にいかせる所がありました。
- ・指導をする側も、技術の向上につながる良い内容が聞けてよかった。
- ・クリニックに参加して良かった。今年で終わってしまうのが残念です。

10 所感

初級者からトップレベルの上級者まで幅広い選手が講習に集まったが、どの参加者も技術に関係なく高い向上心を持って参加しており、お互いがレベルアップするためにアドバイスをし合う姿が印象的であった。常にノートに講習の内容を書き込み、自発的に行動して、主体的に参加しようという雰囲気が伝わってきた。団体間の交流も見られ、選手同士、指導者同士の繋がりが広まったように思われる。事業が始まってから6年目を迎え、島内の卓球人口も増え、地域貢献にもつながった。

